

生徒指導にかける想いを 先代から受け継いだ個別指導塾

歴史ある学習塾を運営する 新進気鋭の若手塾長

「稲門（とうもん）進学ゼミナール」は西東京市で50年以上の長きにわたり小中高生の学習指導をしてきた学習塾である。この歴史ある「稲門進学ゼミナール」を事業承継し、令和4年4月から新たな塾長として就任したのが岡田琴里代表である。岡田代表は、どの生徒に対しても真摯に向き合っており運営するという先代の意を継いで、地域の小中高生の学習指導に取り組んでいる。「一人ひとり個別に見て、その生徒に合った教え方をしたい」と語る岡田代表の塾には、開校後すぐさま多くの生徒が集まり、現在では受け入れ可能な定員がすべて埋まりそうな状況だ。

事業承継で始めた 個別指導塾

岡田代表は国立大学農学部を卒業後、教育分野への強い関心からJICA（独立行政法人国際協力機構）の青年海外協力隊として2年間エチオピアへ赴き、理科教員として教育の経験を積んだ。帰国後は国内の学習塾で教室長を務め、生徒数が15人であった教室を1年半で60人へと成長させた。順調に教室長としての経験を積み重ねてきたものの、もっと生徒に合わせたカリキュラムを組んで、柔軟なサービスを提供していきたいと考えようになったという。そして、検討を重ねた結果、



塾の開業方法としてはあまり例がない事業承継という形で塾を始めることになった。事業承継を選択した理由について、岡田代表は「第一に勉強も人としても成長



塾長：岡田 琴里

する塾にしたいという先代の方針が自身の目指す方向性に合っていたことだ」と語る。また、「青年海外協力隊の経験もあって、人とのつながりを大切にしたいという考えが強くありました。誰かが作り上げてくださったものを引き継いで、時代に合わせて改善をしていくというところが、自分のやりたいことに通っていました」とも語る。事業承継という方法を採用したことで先代が築いてきた地域に根ざしたブランドや、教材会社との取引関係などの無形資産を引き継ぐことができ、自身は事業承継後もスムーズに指導に集中することができたという。

勉強を通して子どもたち に成長してほしい

「稲門進学ゼミナール」が目指しているのは、勉強にとどまらず生徒本人に行動変容をもたらすことだ。「成績が上がるのは私たち第三者からの受け身の結果に大きく依存しているに過ぎません。指導で意識しているのは、やはり生徒さんの行動に変化をもたらすことだと考えています。ノートの取り方一つもそうですが、どこでも通用する課題解決力を身につけてほしい」と語る。脈々と引き継がれる生徒指導にかける熱い想い。「稲門進学ゼミナール」の今後のますますの発展に注目したい。

稲門進学ゼミナール

塾長：岡田 琴里（おかだ ことり）

住所：西東京市田無町4丁目4-15 宮田ビル3F

電話：042-497-6552

https://toumon-zemi.com/

稲門進学ゼミナール

検索

気になるプロジェクトを紹介

コロナ禍で失われたあの夏を取り戻せ 甲子園大会の復活プロジェクト

大会中止の無念さを晴らしたい 高校球児たちの願いが 込められたプロジェクト

新型コロナウイルスが猛威を振るった令和2年、毎年恒例の夏の風物詩である阪神甲子園球場全国高等学校野球選手権大会（以下、甲子園高校野球大会）は、戦後初の中止となった。それから3年が経過したものの、大会出場を目指して野球に打ち込んだきた当時の高校球児の心には、その年の無念さが今も残っている。

「どうして若者から声を上げて動くことができなかったのか」と中止となった当時を悔いて、失われた夏を取り戻そうと奔走する若者がいる。武蔵野大学の学部生である大武優斗さん・鎌下志歩さん・上柳政太さんたちが進める「あの夏を取り戻せ」プロジェクトである。発起人である3年生の大武代表も高校3年時に甲子園高校野球大会出場の夢を絶たれた球児の一人だ。プロジェクトでは、令和2年に甲子園高校野球大会の代わりに行われた各都道府県の独自大会の優勝チーム44校を集め、令和5年11月29日（水）に憧れの阪神甲子園球場で甲子園大会を実現する予定だ。大会開催日も近づき、準備も大詰めを迎えている。「はじめはここまで取り上げられるとは想像もしていませんでした。今では多くの関係者を巻き込んでいますし、なんとでも成功させたい。責任を強く感じます」と語る。



に取材協力の電話をかけてきたという。「プロジェクトの理念に共感しているし、身近に尊敬できる先輩がいるから打ち込めていませ」と日々努力も苦にならない様子を1年生の鎌下さんは語る。

選手たちのため 当時の甲子園を再現したい

現在、「あの夏を取り戻せ」実行委員会では大会運営費七千万円を集めるために、クラウドファンディングを行っている。すでに注目度も高いこのプロジェクトではあるが、まだまだ現状に満足していないという。「小さな力しかない学生の僕らが大きな目標を達成することで、何かで辛く困っている人に見てもらったときに勇気づけることができる、そんなプロジェクトにしたい」と大武代表は語る。その力強い話しぶりに、誰もが応援したくなる当時の球児たちの青春を感じた。プロジェクトの成功に期待したい。

起業家精神が活かされた プロジェクト運営

プロジェクトは大会運営や管理のほか広報活動など幅広い取組みを全国規模で行うことが求められるため、全国各地の総勢50名もの学生メンバーで運営されている。武蔵野大学には起業家精神・経営の知識を学べるアントレプレナーシップ学部があり、その学部生である3名がプロジェクトの中心メンバーとなり、大学で学んだ知識を発揮しながら日夜、プロジェクトの推進に励ん



左：鎌下 志歩 中：大武 優斗 右：上柳 政太



あの夏を取り戻せ実行委員会

発起人：大武 優斗（おおたけ ゆうと）

https://www.re2020.website/

あの夏を取り戻せ

検索

西東京商工会 事業環境変化対応型支援事業

西東京商工会では市内事業所の皆様の経営について、ご相談にお答えできるよう「無料相談会」を実施しています。令和6年1月までの月曜・木曜（予約制、年末年始・祝日を除く）に中小企業診断士による経営上の相談を（販売促進・事業計画書の作り方や見直し・各種補助金制度内容の説明など）無料で受け付けています。ぜひ、ご相談ください。

※事業計画書作成などの代行は行っていません。

西東京商工会

042-461-4573

西東京商工会

検索

西東京創業支援・経営革新相談センター

西東京市
産業ニュース匠ナビ



発行日：令和5年11月10日

発行：西東京市

企画：RIPPLE 西東京

協力：西東京商工会・多摩信用金庫



お問合せ先
産業振興課

042-420-2819